

《にぎわいの定義》

協議会では、「国分寺街道にふさわしいにぎわい」をテーマに検討を行いました。様々な意見が出ましたが、大別すると、「地域住民のコミュニティを中心とした地域の豊かさによって創出されるにぎわい」と「地域外から人が集まることによって創出されるにぎわい」の二つに分けられます。また、この二つのにぎわいは、「分けて考える必要がある」との意見がありました。

よって、国分寺街道にふさわしいにぎわいについては、「地域の豊かさ」によるものと「来訪者が集まること」によるもの、それぞれのにぎわいを定義づけることとしました。

【1. 地域住民のコミュニティを中心とした地域の豊かさによって創出されるにぎわい】

にぎわいの定義

- 魅力的な商店街があり、地域住民が日々の買物を楽しむことができる。
- 空き店舗が少なくなり、新たな商店が増え、地域経済が活性化している。
- 商店街にはこくベジや（ブランド化した地場野菜）をこくベジ活かした商品を扱う店があり、選ぶ楽しみ、買って食べる楽しみがある。
- 地域の大学の学生が地域の活動に積極的に参加し、連携した取組みが実施され、新しい価値を生み出している。
- 地域の歴史や特性を活かしたイベントの開催が行われている。
- 地域の人々が心地良く過ごせるコミュニティの場があり、コミュニティが形成されている。

目標

- 1-1 買い物を楽しむことができる商店街。
- 1-2 地域コミュニティの形成。

【2. 主に観光客や来訪者が集まることによって創出されるにぎわい】

にぎわいの定義

- 観光客のためのおもてなしの拠点が設置され、史跡を訪れる人が国分寺街道に寄って休憩、飲食、土産物の購入などをし、地域経済が活性化している。
- 何度も訪れたい魅力があり、リピーターが増える。
- 観光客は、歩き、自転車、バス等、様々な交通手段で地域を回遊する観光ルートを選択をすることができ何度も楽しめる。
- 国分寺街道に関する情報が多数発信されていて、受信した人が国分寺街道に興味を持ち、訪れる。

目標

- 2-1 観光客が国分寺街道に寄りたくなる魅力をつくる。
- 2-2 国分寺街道の魅力を知ってもらう。

【協議会での主な意見】（国分寺街道にふさわしいにぎわい）

◆「外から来る人でのにぎわい」と「住んでいる人たちが集う中でのにぎわい」とに分けて考える必要がある。

◆地域住民のための商店街がある。◆徒歩圏で必要な買物がすべて揃い、便利。  
◆歩く人が安全に通行できている。◆通学路として利用されている。

◆まとまった農地があることが地域の魅力。農業体験や地場生産の野菜の直売所などで人が集まっている。◆こくベジや農地などを活かしたにぎわい。

◆学生との連携・コミュニティがある。（東京経済大学や東京学芸大学の近隣の学校だけではなく、周辺の大学の学生が集まるコミュニティがある。また、卒業しても在校生が引継ぎ、人が変わっても続いている。）

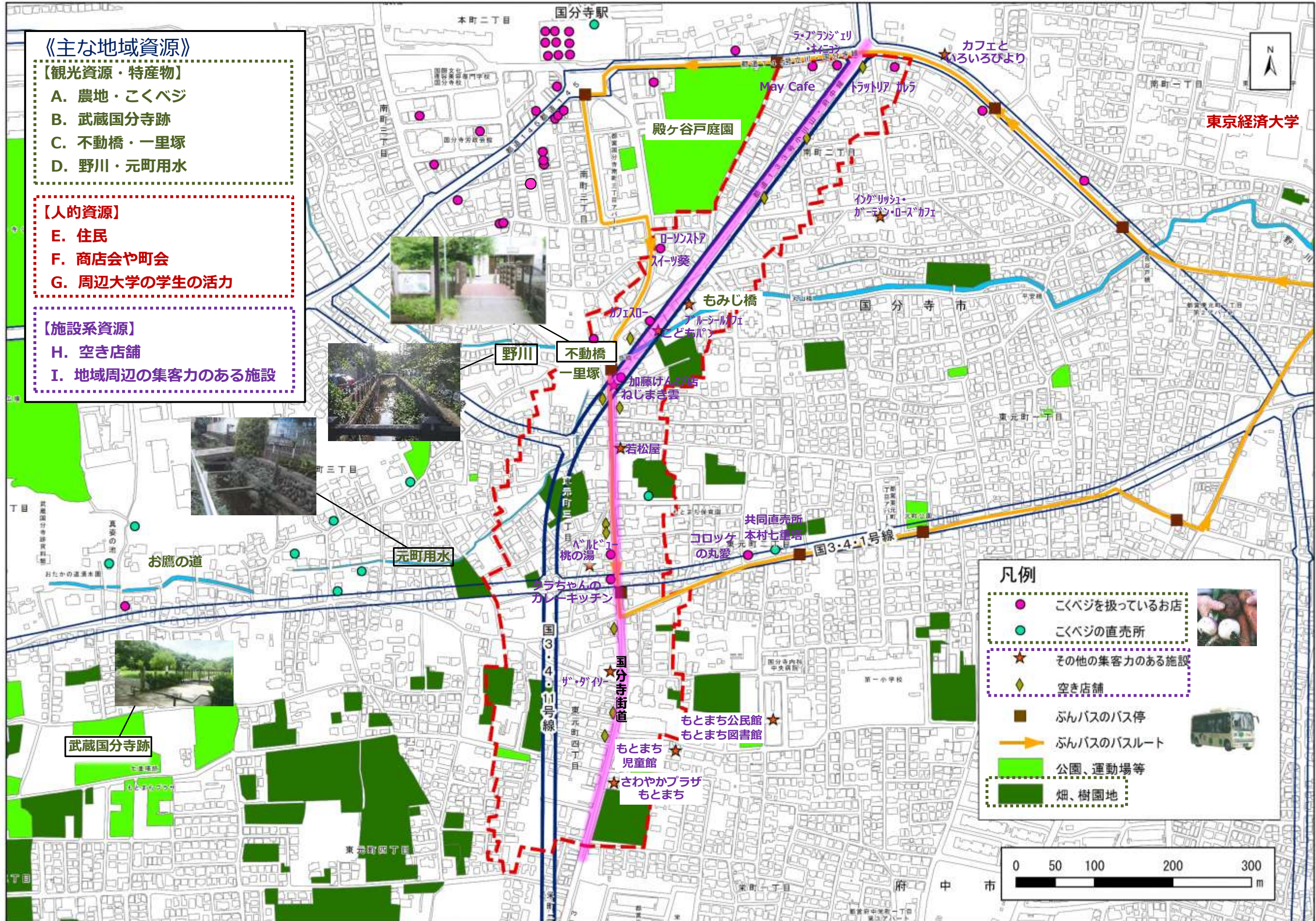
◆地区内には児童館、さわやかプラザもとまち等の施設があることから福祉と連携したにぎわい。  
◆住民が集えるお店がある。  
◆多世代が交流できる場所がある。

◆人が集まれる地域資源や施設を核としたにぎわい。

◆一里塚、不動橋などの資源がある。ここを回遊ルートの起点としたにぎわい。  
◆史跡や不動橋などの歴史資源を活かしたにぎわい。  
◆芋けんぴのお店やねじまき雲、ローズガーデンなど、集客力のある店舗等を活かしたまち。  
◆野川や元町用水などの水資源を活かしたにぎわい。  
◆武蔵国分寺方面、あるいは東元町一・二丁目方面などへの回遊ルートの一部として、国分寺街道に人が歩いている。

◆まちの情報が発信されている。

# 国分寺街道周辺エリアのにぎわいの創出について たたき台



【1. 地域住民のコミュニティを中心とした地域の豊かさによって創出されるにぎわい】

【目標】 1-1 買い物を楽しむことができる商店街。

《取組み》

(活用資源) × A. 農地・こくベジ

①こくベジプロジェクトとの連携

⇒農園を活用した体験プログラムや講座を地域の農家、店舗、行政、団体などで連携して実施したり、育てた野菜をそこで調理しその場で味わえるよう国分寺街道沿いに提携するシェアキッチン兼食堂を造ったりするなどの民間プロジェクトを支援します。  
⇒国分寺街道が歩きやすい道となることから、道路空間を活かし、こくベジをはじめとした旬の食材を販売するマルシェイベントを開催し、人々のにぎわいを生みだします。

例) こくベジプロジェクト

こくベジプロジェクト：(1) 国分寺市の農業と野菜のすばらしさをPRすることで、市内外のかたに地場野菜に興味・関心を持っていただき、(2) 市内の飲食店が考案した地場野菜を使ったオリジナルメニューをPRすることで、市外から人を呼び込み、市内消費を促進し、国分寺市の活性化を目指す取組み。



こくベジポスター

(活用資源) × G. 周辺大学の学生の活力

②周辺地域の大学と連携した取組みへの支援

⇒周辺地域の大学生と連携し、こくベジを使った地域の名産品になるような商品の開発や、地域の学生が学びの一環としてチャレンジショップに取組むことを支援し、学生が地域へ入っていくためのきっかけづくりを進めます。

例) 戸越銀座のコロケ

チャレンジショップ：商売を始めたいが経験もなく、最初から独立店舗で始めることが困難な人に対し、行政や商工会議所などが家賃や管理費などを一定期間無償または低額で店舗を貸し出す制度。



学生チャレンジショップ(足利市)

(活用資源) × H. 空き店舗

③空き店舗の利活用

⇒空き店舗オーナーが事業者へ貸し出したくなるよう、オーナーが手間を掛けずに安く貸し出せるマッチングの仕組み創設の検討や、リノベーションスクールの開設等を支援します。

例) 北九州市リノベーションまちづくり「小倉家守構想」  
青梅市のアキテンポ事業



リノベーションによるまちづくり(北九州市)



青梅市アキテンポ不動産見学会ポスター

【協議会での主な意見】(にぎわいを創出するための取組み)

- ◆こくベジの直売所を集約した、こくベジ市場を作る。
- ◆道の駅のように地域のものが買え、イートインできる拠点を作る。周辺の農地・農産物を活用し、6次産業を確立させる。
- ◆周辺の生産緑地を残し、にぎわいに活用していく。地場生産の野菜の直売所を国分寺街道沿いにつくる。
- ◆共同直売所やコロケ店に人が集まっているので、国分寺街道沿いにも店舗を立地させる。

- ◆農工大で焼酎を作っていることを参考に、大学と地元の名産品の共同開発をする。
- ◆若者向けにテストマーケティングを兼ねた創業支援を行う。学生などが試しに事業に取組み、軌道に乗ればここで事業を続けてもらうような仕組みをつくる。

- ◆空き店舗を活用するために、建物所有者であるオーナーが協力してくれる仕組みをつくる。
- ◆商店街の店舗併用住宅のシャッターを上げさせる取組を行う。例えば、併用住宅の店舗の中で空間を仕切り、商業スペースとオーナーの居住空間を区分してオーナーのプライバシーを守れるような工夫ができるのではないかな。
- ◆国3・4・11号線の整備に際して、移転が必要となる店舗等の移転先として、商店街の空き店舗等を活用する。

【目標】 1-2 地域コミュニティの形成。

《取組み》

(活用資源) × E. 住民 F. 商店会や町会

④ 地域の歴史や資源と関連したイベントの開催

⇒国分寺街道が歩行者主体の道路となることから、道路を使った大胆なイベントの開催を支援します。道路空間を活用したイベントを開催し、まちのキーパーソンを発掘や、地域住民への買物以外の楽しみの提供、店主と客のコミュニケーションの機会作りを推進します。

例) ぶんぶんウォーク  
ばんどろホコテン



ぶんぶんウォーク



歩行者天国(坂東市)

(活用資源) × E. 住民 F. 商店会や町会

⑤ エリアマネジメントの検討

⇒公共空間の維持管理・活用を担いながら、行政や民間組織との調整を図るエリアマネジメント組織の導入を検討します。イベント等のまちのにぎわいの担い手をつなぐ組織作りを進めます。

例) グリーン大通りエリアマネジメント協議会



グリーン大通りエリアマネジメント協議会によるイベントの開催(南池袋)

E. 住民 F. 商店会や町会

(活用資源) ×

⑥ コミュニティビジネスの支援

⇒身の回りの問題を、地域住民が、人材やノウハウ、施設などの地域資源を活かし、ビジネスの手法を用いて自分たちで解決するコミュニティビジネスの支援を行います。

例) カフェといろいろびより



カフェといろいろびより(南町にあるコミュニティカフェ)

【協議会での主な意見】 (にぎわいを創出するための取組み)

- ◆さわやかプラザもとまちでは、様々なイベントを開催することで、多くの集客がある。学生にも参加してもらい多世代が交流できるような場とする。
- ◆農地を活用し、農業体験などのイベントを行う。
- ◆府中市等と連携したイベントを行い、人を呼び込む。
- ◆元町用水でのホタルの放流や本村八幡神社祭礼など地域資源を活用したイベントと連携し、国分寺街道に人を呼び込む。
- ◆通過交通は国3・4・11号線へと移るので、国分寺街道を歩行者天国にしてイベントを実施するなど、地域の人々の場として活用し、商店街を活性化させる。

- ◆ボランティアに参加した学生に単位を与えるなどのインセンティブを与え地域参加を推進する。
- ◆空き店舗を継続的な学生ボランティアの拠点として活用する。
- ◆将来的なエリアマネジメントによるまちづくりの取組を見据え、既存の商店会や町会が連携できる基盤や組織作りを進める。

- ◆農工大で焼酎を作っていることを参考に、大学と地元の名産品の共同開発をする。
- ◆若者向けにテストマーケティングを兼ねた創業支援を行う。学生などが試しに事業に取り組み、軌道に乗ればここで事業を続けてもらうような仕組みをつくる。
- ◆将来的なエリアマネジメントによるまちづくりの取組を見据え、既存の商店会や町会が連携できる基盤や組織作りを進める。
- ◆国分寺街道沿いに地域住民が集まれるコミュニティの場所をつくる。

【2. 主に観光客や来訪者が集まることによって創出されるにぎわい】

【目標】 2-1 観光客が国分寺街道に寄りたくなる魅力をつくる。

《取組み》

(活用資源) × C. 不動橋

⑦ 来訪者へのおもてなし拠点の設置

⇒ 不動橋付近をエリアの拠点に位置付け、観光のおもてなし拠点をつくります。



不動橋



倉庫をリノベーションした観光拠点 Onomichi U2 (尾道市)



(活用資源) × A. 農地 B. 武蔵国分寺跡 D. 野川・元町用水 I. 周辺の施設

⑧ 散策コースの検討

⇒ 史跡等、周辺地域の観光資源や個性的な店舗等と国分寺街道を回遊する散策コースを複数用意し、観光客が目的や好みにより選択でき、何度も楽しめるようにします。



武蔵国分寺跡



びわ湖女子観光プロジェクト おなかいっぱいちょこっと恋コース



益子市サイクリングマップ

⑨ シェアサイクルの検討

⇒ 周辺地域の観光資源を周遊する、ワンウェイ（各拠点に乗り捨て可能）なシェアサイクルの基地の設置について検討します。観光や買い物の利便性を高めるための拠点などについて研究をすすめます。

シェアサイクル: 共用自転車を自治体や企業が貸し出し、地域の移動手段とする仕組み。



サイクルポート (練馬区)

【目標】 2-2 国分寺街道の魅力を知ってもらう。

《取組み》

(活用資源) × F. 商店会や町会 G. 周辺大学の学生の活力

⑩ 情報発信の促進

⇒ 地域の担い手（商店街や周辺地域の大学生）による多様な情報発信（SNS やインスタ）を行います。複数の主体による発信を通して、まちの魅力を広く深く拡散します。

【協議会での主な意見】 (にぎわいを創出するための取組み)

- ◆ 国分寺街道沿いににぎわいの拠点を形成する。
  - ・ 北側の拠点を南町二丁目交差点周辺とし、国分寺駅方面から来る人の入口となり集まる場所とする。
  - ・ 中心拠点を一里塚バス停・不動橋周辺の資源を活用できる場所とする。また、周辺への回遊の拠点として活用する。
  - ・ 南側の拠点を府中市との境界付近につくり、府中方面から来る人の入口とする。
- ◆ 不動橋周辺の水辺・緑の資源の活用。
- ◆ 外から来る人のために、公衆トイレを整備する。
- ◆ 商店街で共同管理できるようなトイレの整備を検討する。

- ◆ ハイキングで駅からお鷹の道へ行く高齢者の団体が多くいるので、国分寺街道へも立ち寄ってもらえるように工夫する。
- ◆ 一里塚、不動橋などの資源がある。ここを回遊ルートの起点としてにぎわいを創出する。
- ◆ 武蔵国分寺方面、あるいは東元町一・二丁目方面などへの回遊ルートの一部として、国分寺街道を歩いてもらえるように回遊ルートを検討する。
- ◆ お鷹の道など、史跡への案内表示などを分かりやすくする。
- ◆ 人を呼び込む工夫として、スタンプラリーなどを行う。

- ◆ 来訪者の利便性を向上させるため、歩き、自転車、バスなど、多様な交通手段を用意する。シェアサイクルの導入は交通利便性を高める1つの手段である。
- ◆ 歩きたくなる工夫として、シェアサイクルやパーク&ライドを行うことで、より多くの人を訪れ、歩いてもらえるようにする。

- ◆ まちの情報発信。
- ◆ 国分寺街道のイメージをアピール。